

この連続講座は世田谷区グリーフサポート事業により補助されています。

「グリーフサポートせたがや」の連続講座

「いま」を生きる グリーフとともに

～喪失体験は過去形、哀しみは現在進行形～

「グリーフ」という言葉をご存じですか？大切な人やものを失って感じる、哀しみや傷つき、そしてさまざまな心身の反応のことをいいます。人は喪失を経験すると、否応なく、喪失以前とは違う人生を歩むことになります。悲嘆、愛惜、安堵、絶望、無力感、罪悪感、心身の不調、経済不安などを抱えながら、わたしたちはその後の生活を続けていかなければなりません。この連続講座は、自分や人の哀しみに寄りそうことについて理解を深めるための講座です。「グリーフ」を抱えて生きることの現実や必要なサポートについてみなさんと考えたいと思います。



第1回

哀しみに寄りそいともに生きる～地域におけるグリーフサポートとは？

2017年5月21日(日) 午後2時～5時

場所 世田谷文化生活情報センター「生活工房」(キャロットタワー内) 5FセミナールームAB
(世田谷区太子堂4-1-1) 東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋」駅から徒歩5分

講師 入江杏さん&西田正弘さん

犯罪被害により突然家族3人を失った入江杏さん。12歳のときに交通事故で父親を失った西田正弘さん。喪失体験の当事者でもあり、グリーフサポートの専門家、そして世田谷区グリーフサポート検討会委員でもあるお二人から、「哀しみに寄りそいともに生きる」をテーマにお話いただき、世田谷区グリーフサポート事業の取り組みについて考えます。



入江杏さん

(ミシユカの森主宰、上智大学グリーフケア研究所非常勤講師)

2000年12月31日未明、「世田谷一家殺害事件」に遭遇し、隣家に住む妹一家を失う。犯罪被害からの回復・自助とグリーフケアに取り組みながら、学校などで絵本創作と読み聞かせ活動を行う。著書に『悲しみを生きる力に――被害者遺族からあなたへ』(岩波ジュニア新書)ほか。



西田正弘さん

(あしなが育英会 東北事務所長、NPO法人子どもグリーフサポートステーション代表)

交通遺児育英会およびあしなが育英会に勤務。自死遺児のサポートに取り組み、NPO法人自殺対策支援センターライフリンク立ち上げに関わる。東日本大震災で親を亡くした子どものサポートにも取り組む。著書に『死別を経験した子どもによりそう～沈黙と「あのね」の間で』(梨の木舎)ほか。

参加費 1000円(パソコン文字通訳・手話通訳つき、保育は要申込) ※介助者は参加費無料

定員 先着100名(当日参加可・満席の場合は事前申込者優先)

申込先 Email、電話又はFAXで一般社団法人グリーフサポートせたがやへ

Email: griefsetagaya@yahoo.co.jp、電話: 03-6453-4925、FAX: 03-6453-4926

留守電の場合は、お名前とご連絡先を入れてください。折り返しご連絡いたします。

*会場にはエレベーターがあり、会場内は車いすで移動できます。 *原則として、世田谷区在住・在勤・在学の方が対象です。

主催: 一般社団法人グリーフサポートせたがや 共催: 世田谷区 所管: 世田谷保健所健康推進課



第2回

死別による喪失

2017年9月2日(土) 午後2時～5時

場所 世田谷文化生活情報センター「生活工房」(キャロットタワー内)
5FセミナールームAB(世田谷区太子堂4-1-1)
東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋」駅から徒歩5分



大切な人を亡くした体験を持つ方々のお話を伺います。死別を経験した当事者でもあり、支援者でもある方の「これまでと今」そして「これから」を伺い、グリーフの多様さやグリーフとともに生きるということについて、理解を深めるための講座です。

登壇者(予定)

- 加治陽子さん** 「グリーフサポートせたがや」メンバー、在宅クリニックのグリーフカウンセラー。子どもの頃の兄の死、両親の死からグリーフを学び、「グリーフサポートせたがや」の立ち上げに関わる。
- ケンタロウさん** 「LGBT・いぞくの会」を行う「ドント・ウォーリー」代表。11年連れ添ったパートナーを急病で亡くし様々な困難を伴った看取りや死別の体験をもとに「ドント・ウォーリー」を立ち上げる。
- 森美加さん** 「NPO法人暮らしのグリーフサポートみなと」代表、グリーフサポートせたがやファシリテータ。2006年、当時中学2年生だった息子の啓祐くんをいじめによる自死で亡くす。

第3回

さまざまな喪失

2017年11月11日(土) 午後2時～5時

場所 世田谷区役所第3庁舎3階「ブライツホール」(世田谷区世田谷4-22-33)
東急世田谷線「世田谷」駅・「松陰神社前」駅から徒歩5分

喪失体験とは、死別によるものだけではなくありません。性暴力を受けること、原発被害に遭うこと、精神障害を抱えながら社会で暮らすことなど…。社会に対する安心感や信頼感を失うという、さまざまな喪失を経験した方の「これまでと今」そして「これから」に必要なグリーフサポートについて理解を深めます。

登壇者(予定)

- 山本潤さん** SANE 性暴力被害者支援看護師、性暴力サバイバー自助グループ「つぶいちごの会」主宰。『13歳、「私」をなくした私 性暴力と生きることのリアル』(朝日新聞出版) 著者。
- 鹿目久美さん** 相模原の保養キャンププログラム「母ちゃんず」メンバー、福島からの自主避難者。神奈川県相模原市で、母子避難生活を送る。
- 新澤克憲さん** 精神障害をもつ方々の波乱に満ちた毎日の生活を題材に「幻聴妄想かるた」を制作・販売している就労継続支援B型事業所「ハーモニー」施設長。

第1回(5月21日)、第2回(9月2日)の会場(キャロットタワー生活工房) 第3回(11月11日)の会場(世田谷区役所第3庁舎)



一般社団法人 グリーフサポートせたがや(グリサボせたがや)って?

大切な人を亡くした子どもや大人が集い、遊びやおしゃべりを通じて、ゆっくりと自分のペースで自分の気持ちと向き合うことのできる家「サポコハウス」を世田谷区太子堂で運営しています。世田谷区グリーフサポート事業においては、個別対面相談や電話相談などを実施しています。

